



三島町ゼロカーボンビジョン（概要）

奥会津三島らしい持続可能な暮らしと循環型の社会の創出を目指して、
ゼロカーボンの実現に向けた環境と調和した町づくりに取り組みましょう！

1. 三島町とゼロカーボンビジョン

背景

- 近年、人的温室効果ガスの排出が原因とした気候変動により、様々な地域に自然災害などの影響を及ぼしています。
- 国でも2050年までに**二酸化炭素（CO₂）排出量の実質ゼロ**（このことを「ゼロカーボン」という）を目標に掲げおり、県内でもゼロカーボンを目指す自治体が増えています。
- 三島町では、2006年に**三島町地域新エネルギービジョン**を策定以降、木材を燃料とする木質バイオマス等の再生可能エネルギー（再エネ）導入に係わる取組を行っています。また、2017年に**国立環境研究所と連携・協力に関する基本協定**を締結。2019年には、**三島町地域循環共生圏推進協議会**を設立し、森林資源の活用と、環境と調和した町づくりを目指しています。
- そのような取組みや方向性を総合的にまとめ、町全体のゼロカーボン達成に向けた明確な道筋を描く計画として**三島町ゼロカーボンビジョン**を策定します。

ゼロカーボンビジョン
2050年 目標

三島町の
CO₂排出量を
実質ゼロへ

意義

このビジョンでは、ゼロカーボンの達成を目標に掲げ、**町民の皆さまと一緒に森林の価値向上、省エネなライフスタイル、再エネの地産地消**を実現し、住みたい住み続けたいふるさとを創ることを目指します。

森林の価値向上



- 樹木には、成長のために**二酸化炭素（CO₂）**を吸収し、炭素を固定させる性質があります。そのため、森林を適切に管理していくことは、良質な樹木の育成環境が整うことに加え、**CO₂の吸収源としての価値**も生まれ、森林資源全体の価値が高まります。
- 森林整備により、美しい村としての景観や、獣害対策、土砂災害などの**防災・減災対策**にも繋がります。

住みたい、住み続けたい
ふるさと(桐源郷)を創る

～どこにでもある ここにしかないふるさと～

第五次三島町振興計画
〔基本構想〕

省エネなライフスタイル



- 公共施設や住宅などの建築・改修時に、高気密・高断熱な建物構造、高効率のエネルギー設備を採用することで、**省エネで快適な暮らしの実現**を目指します。
- **電気自動車などの推進**やデマンドバスなどの**地域交通体制を整える**ことで、CO₂の排出を抑制していきます。

再エネの地産地消



- 地域資源を活用した再エネ（木質バイオマス、太陽光、小水力など）による**エネルギーの地産地消**と**地域内経済循環**の実現を目指します。
- 再エネの地産地消によって、森林資源の活用や、**災害時のエネルギー供給**に繋がります。

計画期間

- **2022年度～2050年度まで**のビジョンとなります。 ※必要に応じて計画を見直します。

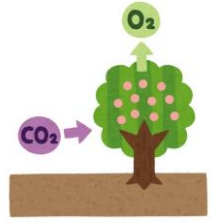
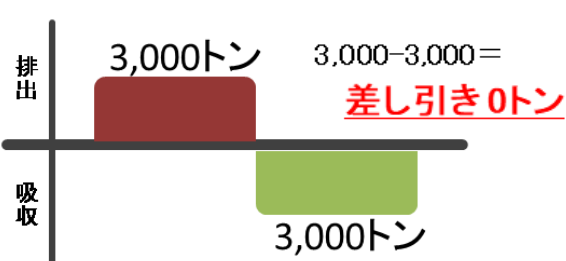
2. 三島町の目指すゼロカーボンビジョン

ゼロカーボンとは？

- 温室効果を生じる主な物質であるCO₂を、**排出しない吸収する**、排出する原因を変化させる事によってゼロカーボンが達成されます。
- 2013年時点の三島町の年間CO₂排出量は、**約13,100トン**と推計されますが、**排出削減**とともに、CO₂の吸収源となる**管理された森林（人工林）を増やす**ことで、ゼロカーボンに向かっていくことができます。

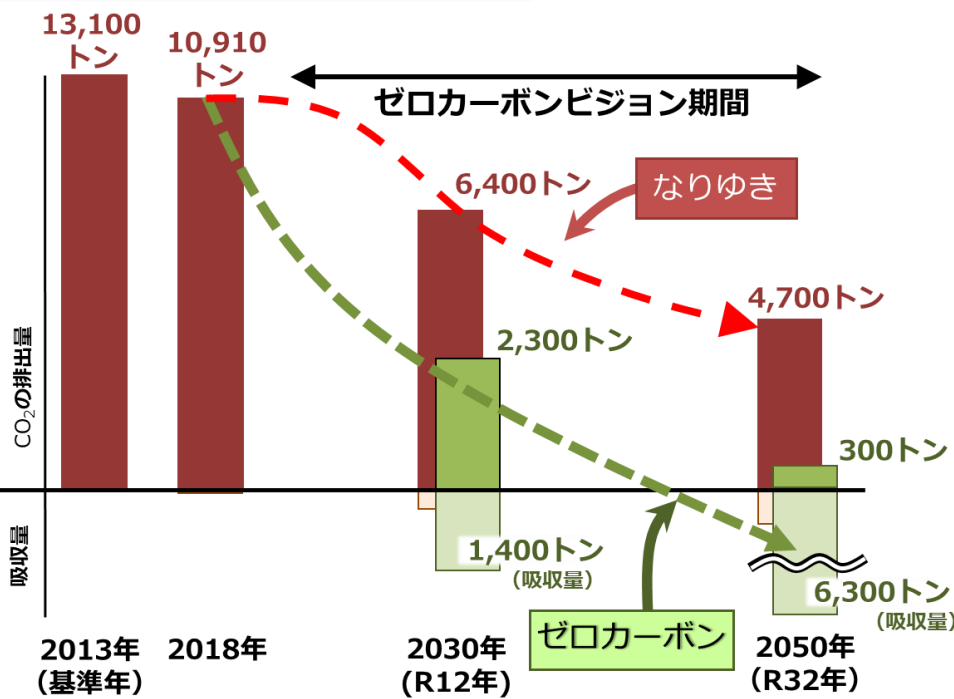
ゼロカーボンのイメージ

CO₂排出量 - CO₂吸収量



※約1,000haの森林管理で3,000トンの吸収源

ゼロカーボン達成のために



なりゆきとは？

何も対策をしなかった場合のシナリオです。

現状の生活をそのまま続けた場合でも、人口減少と比例してCO₂排出量も減小していきます。それでも2050年時点のCO₂の排出量は、で**4,700トン**と推計され、ゼロカーボンまで程遠い状況です。

ゼロカーボン

ゼロカーボン達成に向けたシナリオです。

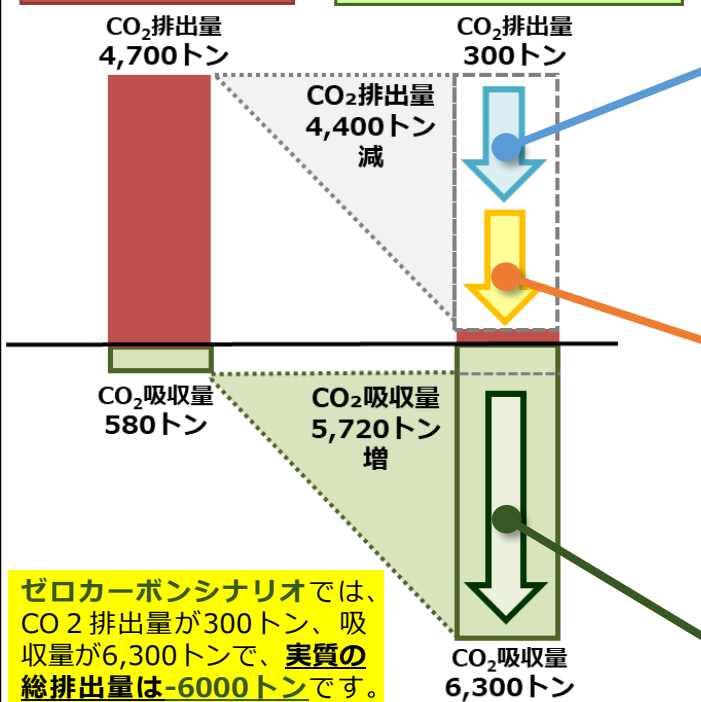
建物や設備、交通車両などの**省エネ・電化**に加え、地域資源を活用した**再エネを積極的に導入**することでCO₂の排出量を最大限に抑制します。また、森林整備を進めることで、CO₂の吸収源となる**管理された森林**が増加し、ゼロカーボンの達成に向かっていきます。

2050年時点のCO₂排出量は**300トン**で、森林による吸収量を差し引きすると**実質マイナス6,000トン**となり、カーボンマイナスの実現も可能です。マイナスとなった分をCO₂の排出権として、他の地域と取引を行うことで、国全体のゼロカーボン化にも貢献できます。

ゼロカーボンへの取組詳細

なりゆきの将来 (2050年)

ゼロカーボンの将来 (2050年)



ゼロカーボンシナリオでは、CO₂排出量が300トン、吸収量が6,300トンで、**実質の総排出量は-6000トン**です。

なお、**なりゆき**でもCO₂吸収量は580トンとなりますが、排出量を**4,400トン減らす方策「イ・ロ」の実現**には、「**ハ**」の方策によって森林資源を最大限に利用できる環境が前提にあります。ゼロカーボン達成には、**3つの方策を合わせて実施していく必要**があります。

イ. 省エネ&電化促進

① 生活や仕事の省エネ化

- 日常の省エネ行動
- 高効率な家庭機器への買い替え
- 家庭ゴミなど廃棄物の抑制
- 建物の改装・建築時の省エネ化 (高気密・高断熱化など)
- 福島県地球温暖化防止活動への参加 (福島議定書、エコチャレンジ)

② 脱炭素交通の推進

- 「エコドライブ10のすすめ」の実践
- 充電スタンド増設と再エネ設備との連携
- 自家用・業務用車の電気自動車への移行
- 地域交通の充実化 (デマンド町内交通の整備、介護車両の改良促進、只見線の利便性向上)
- 積極的な地域交通の利用推進

ロ. 再エネの地産地消

③ 太陽光・木質バイオマス・小水力などの再エネの積極的な導入と利用

- 主要公共施設等への木質バイオマス、太陽光や小水力などの発電設備の導入
- 家庭・事業所における薪ストーブや太陽光発電などの再エネ利用促進
- 地域エネルギー供給体制の構築
- 災害時のエネルギー供給拠点化

【再エネ設備の目標値】

	ポテンシャル量 (設備容量)	導入割合	導入目標
バイオマス (電気+熱)	3,500 kW	20%	700 kW
太陽光発電	12,000 kW	10%	1,200 kW
小水力	810 kW	10%	81 kW

ハ. CO₂吸収源となる森林管理

④ 間伐・再造林などの森林整備の促進

- 官民連携した新たな森林管理体制の構築
- 担い手育成・支援 (林業事業者や自伐林家)
- 林業のスマート化 (ドローン測量やIT技術等との連携、先端的林業重機の利用)
- 住宅・家具、燃料などの町産材利用促進

【森林整備の目標値】

約**2,000ha**※¹の民有林が森林施業等により管理された場合、年間**約6,300トン**※²のCO₂吸収源となる。

※¹ 三島町の民有林6,575haの30%の面積

※² 1haあたり年間CO₂吸収量を3.2トンで推計